

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「中心人物について考えたことをまとめよう」 教材名「サーカスのライオン」

2 単元の目標

行動や気持ち、性格を表す語句の意味を確かめ、人物を説明する文章で使える。中心人物の行動や気持ちを叙述から捉え、根拠を挙げて人物について考えをまとめられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①行動や気持ち、性格を表す語句の意味を確かめ、人物を説明する文章で使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「読むこと」において、中心人物の行動や気持ちを叙述から捉え、根拠を挙げて人物について考えをまとめている。（C(1)イ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

中心人物の行動や気持ちを叙述から捉え、人物について考えたことをまとめる。最後の大きな行動だけで人物を決めず、前の場面での姿や他の人物との関わりも確かめる。学習指導要領のC(1)イを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

人物についての言葉の横に根拠の場面を書き、別の場面で確かめる。語句が出ない場合は性格を表す言葉を集め、近い意味の違いを辞書で調べる。おおむね満足できる状況は、中心人物の行動や気持ちを叙述から捉え、根拠を挙げて人物について考えをまとめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全9時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、中心人物への最初の印象を記録する。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2～3	○前半の行動や気持ちを場面の叙述から確かめる。	知①（語句や内容の整理）
	4～5	○後半の行動を読み、前半との関係を考える。	学習状況を見て支援する。
	6 （本 時）	○人柄を表す言葉を選び、異なる場面の行動を根拠に説明する。	思①（発言・学習記録）
	7	○人物紹介文を書き、根拠の不足を読み手と確かめる。	学習状況を見て支援する。
	8	○紹介文を交流し、着目した場面や人柄の言葉の違いを聞く。	学習状況を見て支援する。
第3次	9	○初めの印象と比べ、叙述から人物を捉える読み方を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (6/9)

(1) 本時の目標

中心人物の行動や気持ちを叙述から捉え、根拠を挙げて人物について考えをまとめられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「中心人物のどんな人柄が、どの行動から伝わりますか。前の場面にも、その考えを確認められるところがありますか」 【めあて】中心人物の行動や気持ちを叙述から捉え、人物について考えたことをまとめる。 〈予想される児童の反応〉 ・最後の行動を読むと、前の何気ない行動も気になる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「中心人物のどんな人柄が、どの行動から伝わりますか。前の場面にも、その考えを確認められるところがありますか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・最後の行動を読むと、前の何気ない行動も気になる。 ・会話と行動を合わせると違う人柄が見える。 ・強そうに見えることと気持ちは同じではない。	人物についての言葉の横に根拠の場面を書き、別の場面で確かめる。語句が出ない場合は性格を表す言葉を集め、近い意味の違いを辞書で調べる。 想定する難しさ：勇敢だ、やさしいなど性格の語だけを答える。根拠が最後の場面に偏る。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 中心人物の行動や気持ちを叙述から捉え、根拠を挙げて人物について考えをまとめている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・強そうに見えることと気持ちは同じではない。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「中心人物のどんな人柄が、どの行動から伝わりますか。前の場面にも、その考えを確かめられるところがありますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

